

映画「丘は花ざかり」上映

2025(令和7)年4月25日(金) 13:30開演(13:00開場)

■会場

市川市生涯学習センター2階
グリーンスタジオ

入場無料

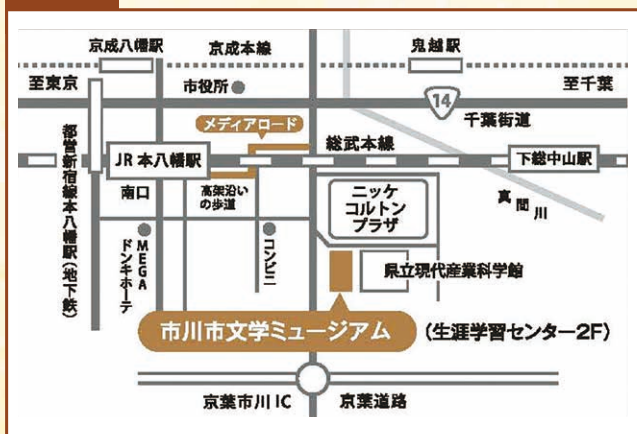
申込不要

先着220名



©TOHO CO., LTD.

地図



■上映作品

「丘は花ざかり」

1952年(昭和27) 上映時間：119分 [東宝]

原作：石坂洋次郎

脚本：水木洋子・井手俊郎 監督：千葉泰樹

出演：清水将夫 木暮実千代 池部良 上原謙 杉葉子

■映画「丘は花ざかり」について

映画「丘は花ざかり」は、『青い山脈』などの青春小説で有名な作家・石坂洋次郎の同名小説を、千葉泰樹監督、脚本を水木洋子と井手俊郎が務め、映画化した作品です。「東宝創立二十周年記念映画」として制作されました。会社の上司に惹かれる香月美和子と、PTA役員と不倫しそうになる姉・信子の、恋愛模様を描いています。

〔主催〕市川市

〔協力〕(公財)市川市文化振興財団

〔お問い合わせ〕市川市文学ミュージアム(月曜日休館)

千葉県市川市鬼高1-1-4 生涯学習センター2階

TEL：047-320-3334 FAX：047-320-3356

市川市文学ミュージアム
Ichikawa City Museum of Literature



※この映画鑑賞会は(公財)市川市文化振興財団が管理する水木洋子著作権使用料より行われています。

脚本家 水木洋子と市川



水木洋子
(1910-2003)



水木洋子邸(書斎)

いつの間にか三十年、私は今までこんなに永く住んだ土地はない。知らぬ間に根が生えて、今では庭の樹木、果実、花、みんな別れ難い存在になってしまった。

市川市と云えば幸田露伴、永井荷風、北原白秋等々、故人が愛好された土地としても有名だが、母や近所の方たちが、こんな良い所はない、終生ここに果てると言うのを、何気なく私は聞いていたのだが、今ではそれがしみじみとわかる。

(水木洋子「房総と私……」1981年)

「ひめゆりの塔」「裸の大将」「キクとイサム」「純愛物語」「竜馬がゆく」など、映画やテレビドラマの脚本家で知られる水木洋子は、1947年(昭和22)から市川市八幡に住み始め、ここから多くの名作を生み出しました。

戦後、日本映画の黄金時代を担った一人であると同時に、女性脚本家の草分けでもあった水木。1997年(平成9)、自宅や貴重な自筆原稿、蔵書などを含む所有財産のすべてを、将来、市川市に寄贈する契約を交わし、2000年(平成12)から、市川市と市民サポーターによる資料整理や顕彰事業が始められました。

2003年(平成15)4月、水木は92歳の生涯を閉じましたが、市川市では、その功績をたたえ後世に伝えていくために、「市川市水木洋子文化基金」を設立。水木の顕彰の為、さまざまな事業を展開しています。

寄贈された資料は「市川市文学ミュージアム」にて紹介しています。また「水木洋子邸」では、水木の暮らしぶりを伝える数々の生活資料を公開しています。

水木洋子邸 市川市八幡5-17-3

公開日

毎月第2・4土曜日とこれに続く日曜日
(1,2,12月は変更する場合があります)

公開時間

10:00~16:00

市川市文学ミュージアム

開館時間

火~金曜日 10:00~19:30(企画展示室の入室は19:00まで)
土・日・祝日 10:00~18:00(企画展示室の入室は17:30まで)
※資料室 10:00~17:00(閉架図書の閲覧、複写申込みは16:30まで)

市川市鬼高1-1-4(生涯学習センター2階)

電話 047-320-3334

休館日 毎週月曜日(月曜が祝日の場合は翌平日)

館内整理日(毎月最終平日 ※8月と12月は除く)

年末年始

★ 水木洋子邸への案内板

市川市文学ミュージアム/JR本八幡駅南口から徒歩15分

都営新宿線本八幡駅から徒歩20分、京成鬼越駅から徒歩10分

水木洋子邸/JR本八幡駅北口から徒歩15分 京成八幡駅から徒歩10分



市川市文学ミュージアム
(生涯学習センター2階)